

防災アプリの公募の取組

防災アプリの公募により目指すこと（取組の目的）

防災に役立つ地理空間情報のオープンデータ化に向け、より「利用しやすい」データの提供方法を検討し、防災アプリを介した防災に関する地理空間情報の活用促進を目的としている。

近年の取組

平成28年度

「地点別浸水シミュレーション検索システム（浸水ナビ）」
（国土交通省）を活用した防災アプリを公募

<防災アプリ大賞>

- ・ハザードチェッカー（兵庫県立大学 有馬研究室）

平成29年度

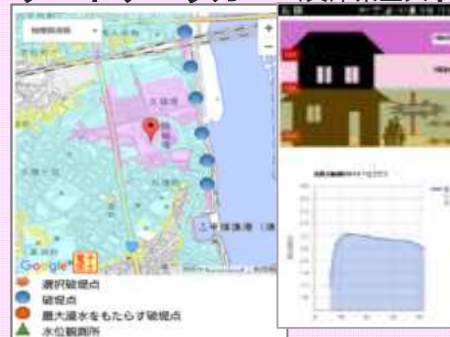
浸水想定区域データや避難場所データなど、各種オープンデータを効果的に活用した防災アプリを公募

<防災アプリ大賞>

- ・SHS災害.info（宮崎県立佐土原高校）

H28防災アプリ大賞

ハザードチェッカー（兵庫県立大学）



H29防災アプリ大賞

SHS災害.info（宮崎県立佐土原高校）



平成30年度の取組（※10/3公募開始！）

【公募テーマ】

- 「国土交通省ハザードマップポータルサイト」から公開している災害リスク情報などを効果的に活用したアプリ
- 平常時や災害時に、居住者等に対して災害の危険性を適時的確に伝えることができるアプリ

【取組スケジュール】

10月3日～11月30日：アプリ公募 ⇒ 12月中旬※：一次審査（書類審査）⇒ 12月下旬※：審査委員会（開発者によるプレゼン審査）

※予定です

【審査の観点】

① 災害リスクコミュニケーションの向上

住民等に災害の危険や被害状況などを適時的確に周知できることが期待されるアプリ

② 自助・共助の促進

災害時における先進的な自助・共助の取組が促進されることが期待されるアプリ

③ 災害リスクのわかりやすさ

ユーザーによる直感的な災害リスクの理解が期待されるアプリ